

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2012.5.5/15 No. 135 連絡先 FAX 042-555-1911



2012年国民平和大行進スタート 羽村の渡邊さん 3回目の通し行進！

5月6日、「2012年原水爆禁止国民平和大行進」（東京ー広島コース）の出発集会在東京・夢の島の第5福竜丸展示館前で開かれました。集会では、4名の通し行進者が紹介されました。3回目の通し行進に参加する羽村平和委員会の渡邊正郎さんは、「なくそう核兵器」「なくそう原発」の2本のノボリを背負って、平和行進の素晴らしさを語りました。集会や話の詳細は、平和新聞をご覧ください。

右写真は、5月6日、笑顔でインタビューにこたえる渡邊さんです。



広島までの日程は約90日間の長丁場です。身体に気を付けて「元気でね！」

渡邊さんからのメール…13日早朝、「平和行進、夢の島より丁度一週間です。神奈川県13日間の日程の半分です。横浜市、県庁などを行進し上大岡で宿泊しています。」「これまで相模原、座間、厚木等を行進してきて、『米軍基地』となると、（※横田DVD）を思い出して、普及に努めています。」ということでDVDの送付依頼でした。

14日夜、「昨日の宿泊は、戦時中軍機密で地図から消された三浦の海ぎりぎりそばの民宿でした。今日14日一日中晴れ、日差しが強く日焼けでむけた腕の皮膚が少々ひりひりしました。

写真はトランペッターの松平さんと通し行進者です。」（※横田DVDは、2011年版「横田基地もいらない！市民交流集会」のドキュメンタリーで、300円です。お問い合わせは上記の羽村平和委員会へ）

第3回「横田基地もいらない！市民交流集会」成功のための学習と意見交換会

4月28日に開かれた学習と意見交換会は、前半は東京新聞の半田滋さんの講演でした。沖縄から戻ったばかりということで、北朝鮮「ミサイル」対処の際の沖縄への自衛隊配備の矛盾点や、航空自衛隊が横田基地に移転しても府中基地はなくなるし、横田にムダなお金をつかっている、等のお話でした。後半は市民交流集会の成功のための意見交換会で、参加者から活発な発言が続きしました。今年の「横田基地もいらない！市民交流集会」は、10月27日（土）です。

米軍横田基地 コンクリート塀の中で緊急管理演習や21挺の銃の空砲発射が…

防衛省（北関東防衛局）と横田防衛事務所から、2件の情報提供が周辺自治体にありました。

緊急管理演習（EME）…実施日：5月14日から18日までの1日のみ。横田基地における緊急事態への対応能力を図ることが目的。PAS、GBS及び煙幕の使用予定あり、航空機の運用予定なし。基地ゲートの開閉が制限される可能性がある。というものです。5月10日、防衛省からの通知。

3月に行われた緊急管理演習の写真が米軍横田基地HPに載っていました。顔や手に血をべっとりとメイクした兵士や、負傷している兵士をチェックしたり火に向かって消火ホースを引き出す等の写真が載っています。訓練は、戦争に役立つものしかないかと知人に聞いたことがあります。

憲兵隊による21挺の銃の空砲発射…日時：5月11日（金）午後4時から4時15分まで。場所：第2ゲート付近建物周辺。参考：アメリカ合衆国の全国（全州）の警察記念週間の記念行事の一つ。ということです。情報提供といっても、連絡は当日11日の4時少し前でした。

「横田基地は必要なのか」東京新聞社説が 問題を投げかける (No. 135 の裏面)

東京新聞が5月13日、「横田基地は必要なのか 週のはじめに考える」と社説で書きました。東京で「横田基地は必要なのか」と問いかけたことは、画期的なことです。一部紹介します。

「東京都の西部に米軍横田基地があります。首都に外国軍の基地があるのは世界でも珍しい。」「横田基地は5市1町にまたがる714ヘクタールの広大な基地です。」

「3月には航空自衛隊の総司令部にあたる航空総隊が移転しました。司令部が集まる場所ですから、米軍の高位高官が出入りしているようです。横田基地で取材中のできごとです。駐機場から建物まで赤いじゅうたんが敷かれました。将官が来る準備だそうです。「どこから、だれが来るのか」と聞いても、基地側から名前や来日した目的は教えてもらえませんでした。」

「実は日本政府も、この将官が乗った航空機がいつ横田に降りたのか、だれが来たのか知る術(すべ)がないのです。日米地位協定により、米軍人、軍属、家族は出入国の手続きをする必要がないからです。横田基地を中心にした一都八県の上空を覆う広大な横田ラブコン(空域)を米軍は自由に使い、どんな航空機でも横田基地に離着陸させることができるから、日本政府はどんな航空機が来たのか知る術がないのです。その意味では、米軍の聖域といえるでしょう。」

「巨大な(米軍の)空域は、民間航空機の運航の障害となっています。羽田空港から西日本や韓国へ向かう民間航空機は、高度を上げて横田空域を飛び越えるため、航空路が過密になり、航空機同士が異常接近するニアミスも起きています。首都に主権の及ばない米軍基地と米軍が管理する空域が広がる日本は、まともな国といえるでしょうか。そして日米両国は対等でしょうか。」

「この間、基地騒音に悩む周辺住民が起こした騒音訴訟は4件が確定し、日本政府から51億円の損害賠償金が支払われました。もちろん税金です。現在も二つの原告団が提訴を準備中です。」

「横田基地は政府が基地を維持するため地方自治体にカネを払う基地行政の原点でもあります。」「基地がカネを生み出すせいか、周辺自治体の『基地反対』の声は大きくないようです。『安全保障は国の専権事項だから反対しても無駄。基地対策費が充実するならやむを得ない』と考えるのでしょうか。東日本大震災で福島第一原発が事故を起こす前の原発周辺の自治体と構図は似ています。」

「日本が主権を回復したサンフランシスコ講和条約から60年。今なお、全国に132カ所もある米軍基地・施設は、すべて日本の防衛や極東の安定に不可欠なのでしょうか。各地に当たり前のようにある米軍基地に慣れ過ぎて、無関心になってはいないか。遊休化したようにみえる横田基地を訪れるたび、『戦後は終わっていない』と実感するのはです。」(下線は編集者による)

「将官が乗った航空機がいつ横田に降りたのか、だれが来たのか知るすべがない」

東京新聞記者が実感したように、日本にありながら横田基地の中のことは、見えません。が…

4月12日、米国太平洋軍司令官のサミエル・J・ロックリアが横田基地に来て、現在のコマンドが直面する問題や新たな司令官としての優先順位を、講演をしたようです。

4月24日、アメリカ合衆国空軍長官のマイケル・ドンリー が 横田基地に来て、「アラスカ、ハワイ、グアムと同様に、ここ日本における当社の拠点は、米国領土の利益を保護し、アジア太平洋地域の安定と安全保障を促進するために重要です。」などと講演したようです。右写真、飛行機を降りて歩くドンリー長官の足元には赤いじゅうたんが敷かれています。(米軍横田基地HPより) (東京新聞記者が見たのは、この赤いじゅうたんだったかもしれませんね。)

米軍横田基地は日本にあるのですから、情報はしっかり公開すべきです。

